

科目名称：	旅行業法Ⅱ	
担当者名：	若月 博延	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>旅行業法では、国家試験である旅行業務取扱管理者試験対策の授業を行っていきます。 特に旅行業法Ⅱでは、試験科目の「国内旅行業務」の中の「JR運賃」、「国内航空運賃」を学んでいきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>国家資格試験の中では、国内地理と双璧をなす難易度のJR運賃を中心に授業を行なっていきます。 また「JR運賃」に関しては、旅行業ばかりでなく、ホテル業でもその理解は求められます。 毎回該当箇所の小テストを行います。 以上を通して、「旅行業務取扱管理者試験」のうち「JR運賃」、「国内航空運賃」分野を修得することが目標です。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	50	0	50	0	100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
JR運賃・料金計算	運賃、料金共に理解し難しい問題も理解できている	運賃、料金のいずれかは理解し難しい問題も理解できている	運賃、料金の簡単な問題は理解できている	全く理解できていない
航空関連の知識	業界用語、略記号、取消手数料・キャンセル料について深く理解できている	業界用語、略記号、取消手数料・キャンセル料についていずれか2つ以上は深く理解できている	業界用語、略記号、取消手数料・キャンセル料についていずれか1つ以上は理解できている	全く理解できていない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 時刻表の「見方」・「読み方」・「求め方」(授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	時刻表を理解しておく	30分
第2回 JR運賃・料金(規則の概要・乗車券類発売の概要)	「規則の概要・乗車券類」の練習問題で復習	60分
第3回 JR運賃・料金(運賃計算の原則・乗車券の種類)	「運賃計算」の練習問題で復習	60分
第4回 JR運賃・料金(運賃計算の特例)	「運賃計算の特例」の練習問題で復習	60分
第5回 JR運賃・料金(乗車券の効力・運賃の割引)	「乗車券効力期間・運賃の割引」の練習問題で復習	60分
第6回 JR運賃・料金(料金計算の原則)	「料金計算」の練習問題で復習	60分
第7回 JR運賃・料金(乗継割引)	「乗継割引」の練習問題で復習	60分
第8回 JR運賃・料金(山形・秋田・九州新幹線の取扱)	「新幹線の特例」の練習問題で復習	60分
第9回 JR運賃・料金(変更・取消・払い戻し)	「運賃・料金の変更・取消・払い戻し」の練習問題で復習	60分
第10回 JR運賃・料金(団体乗車券の取扱)	「団体乗車券の取扱」の練習問題で復習	60分
第11回 JR運賃・料金(特別企画乗車券・周遊きっぷ)	「特別企画乗車券・周遊きっぷ」の練習問題で復習	60分
第12回 国内航空運賃(航空券の概要・普通旅客運賃・料金)(授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	「普通旅客運賃・料金」に関する練習問題で復習	60分
第13回 国内航空運賃(割引運賃・チケットレスサービス)	「割引運賃」に関する練習問題で復習	60分
第14回 国内航空運賃(変更・取消・払い戻し)	「航空運賃の変更・取消・払い戻し」の練習問題で復習	60分
第15回 まとめ、模擬試験	模擬問題での復習	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
毎回の宿題練習問題を50%で評価する。

課題に対するフィードバック

宿題練習問題の結果を採点して返却。

教科書・参考書

授業毎に練習問題・宿題を配布。JR時刻表。